

第 62 号

発行所 〒157-8560
東京都世田谷区成城 1-13-1
東京都市大学附属中学校・高等学校内
電話 03-3415-0104
発行責任者 安藤 友二
編集責任者 清水 茂



東京都市大学附属中・高等学校〈同窓会ホームページ〉
<http://tcu-kasiwa.org/>

今までは、本校卒業生の皆様との唯一の連絡媒体として当会報「柏」の発行(年2回)をしていましたが、これからはHPからのご案内並びに通信となりますので会員登録を必ずお願いいたします。

Career Study 2015 summary

副会長 青木 良雅 (12期生)



夏休み期間中の企業研修を一つのイベントとすれば、2015.11.7(土)の東京都市大学附属中学校中学3年キャリアスタディ発表会も双璧をなすイベントと言える。2015年のキャリアスタディ

企業研修は、生徒数253人、33企業、研修回数39を24人のコーディネーターで対応した。総数では前記のようになるが、最も多く企業研修を頑張ったコーディネーターで5企業、単純計算すれば、コーディネーター数あたり1.625企業になる。極端に言えば自身の関係した企業研修しか実情・実態を知らないのが事実である。

企業研修に臨む生徒は、班分け、班分け後のメンバーで研修スケジュールの調整、相手企業担当者及びコーディネーターを通しての研修日を決定する。班分けから中学3年キャリアスタディ発表会の過程の中でどう学習したかを、知る事の出来る機会がある。拍苑祭の中3学年展示に壁新聞で発表する、2015年度東京都市大学附属中学校3学年キャリアスタディ新聞である。

東京都市大学附属中学校中学3年キャリアスタディ発表会は、あらかじめセレクトされた6班の発表になるのに比べ、中学校3学年キャリアスタディ新聞は、飾らない部分が発表会に比べると見る事が出来るので、例年興味深く展示を見させて貰っている。同時に、自身の企業研修をどう彼らが考え、新聞としてまとめたか、又他の企業研修の具合がわかるので、親近感を感じ乍ら、拍苑祭の2日間、時間を見つけて展示を見させて貰っている。

さて、平成27年度東京都市大学附属中学校中学3年キャリアスタディ発表会は、平成27年11月7日(土)にアルマタホールで行われた。中学3年、2年生の他に多数の保護者の方が参加され大いに盛り上がりました。

2015年の特徴としては、企業研修時と発表会時では、班の編成が異なった事である。過去、同じクラス内での班編成、クラスを横断混成班編成といずれ

も研修時の班の編成方法は異なるものの発表の班も同一であった。2015年については、新しい試みとしての編成、発表方法としたとの学校側からの説明であった。

発表をするに当たってめいめいが研修でお世話になった企業とは別の方が、キャリアスタディのまとめ・発表の過程で、より理解が深まり効果が期待できると言う判断と伺いました。

発表会は、D組河野・E組千田両君による総合司会で、中3学年主任の堤英次先生による開会あいさつ、来賓紹介(①.企業研修関係: (株)エムアンドエム南野保氏、(株)エグゼック森田光哉氏、(株)トムス大岩湛矣氏、日産工機(株)福田光秋氏、富士通(株)長倉明彦氏、医療法人社団ユニメディコ立野慶氏、警視庁羽谷恵一氏 ②.同窓会・コーディネーター: 安藤友二、青木良雅、小泉達雄、今井章久、佐々木幹夫、梅田博夫、小林隆之)があり、小野正人校長より森田光哉氏(古田貴也社長代理)、大岩湛矣の両氏に感謝状の贈呈が行われた。

引き続きキャリアスタディ委員よりキャリアスタディ概要説明があり、その後プレゼンテーションが行われた。①D組6班「社会とは」、②B組4班「仕事を決めるにあたって」、③C組3班「将来に必要なこと」、④E組2班「将来に必要なこと」、⑤F組1班「仕事の流儀」、⑥A組2班「将来の自分へ」の6班で、来賓による最優秀賞の投票が行われ、小野正人校長より、⑥A組2班「将来の自分へ」が最優秀賞を授与されました。

表彰に引き続き、小野正人校長、小泉達雄キャリアスタディ委員長からの講評があり、無事発表会が終わりました。

当日出席の来賓の方々と学校側キャリアスタディ関係者で、反省会を実施し学校へは、キャリアスタディ担当の先生の決定について、継続性を持たせていただける様お願いをするとともに、次年度に向けて更なる発展を祈念して2015キャリアスタディは終了、2015年12月12日のキャリアスタディ打合せより、2016年度の活動を開始した。



中学3年キャリアスタディ発表会

来賓



講評
小野正人校長



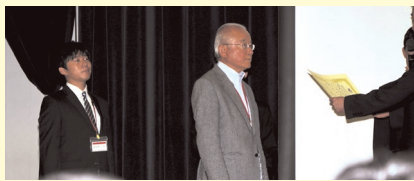
講評
小泉達雄キャリアスタディ委員長



最優秀賞授与



開会のあいさつ



感謝状贈呈
左：エグゼック 森田光哉氏
(古田貴也社長代理)
右：トムス 大岩湛笑氏



キャリアスタ担当先生

左から 松木尚教頭 堤英次先生 田口哲夫先生 伊藤拓先生



第57回「柏苑祭」報告

清水 茂 14期生

平成27年10月3日(土曜日)／4日(日曜日)の二日間、母校における大きなイベントのひとつ《柏苑祭》が開催された。今年のテーマは【パイオニア】。開拓者とも先駆者とも訳される。本同窓会として母校のこの行事に参加させていただいたのは、第37回(平成7年10月)からである。当時の母校では建物の一部分が増改築され、真新しい校舎の一室を心ならずも借入させて頂くことができた。昨年の10月の第57回《柏苑祭》で、20年余りを経過したこととなる。この間、母校実行委員の方にはご迷惑を掛けてきた。

本来、参加・内容を充実させる為にはそれなりの準備期間を必要とします。しかし、何分にも会長・理事以下『労働者』でもあって、必要とする緻密な打合せすら疎かとなってしまいます。

校長先生その他催事担当の先生方の絶大なるご支援の下、何とか継続参加してこられたことに感謝申し上げます。当日は恒例の「退任された先生による最終講義」と題して、江島 修(保健体育)先生に在職中において教師として生徒とどのように接して又、教育者として実践してきたか等、厳しさの中にも生徒のこころの中まで理解して対応されてきたこと等、誘いあって聴講に来られたファンの元生徒さん達に



反省会・懇親会

小泉達雄キャリアスタディ委員長お礼の言葉

も囲まれ、常に慕われてきたことが垣間見られました。同窓会の会場では4、5年前から各種の平面芸術作品を、全く素材(絵具/台紙等)の異なるモチーフ・マチエール(絵肌・材質感)等、個性表現のある『現代美術』を展示しています。これらの絵画作品は、柏苑祭のテーマ【パイオニア】にも重なりますが、それぞれ芸術家は常に新しい概念・観念のもとに絶え間なく創造してゆくことが求められるのです。実はとても厳しい世界なのです。参考としてそれらの作品の画面上から鑑賞者自身、何が掘り起こせ、表現されているかをじっくりと静寂の中で鑑賞することで発見してください。

第58回柏苑祭(予告) 現時点で、未決定ですが開催日は10月上旬～中旬の土曜・日曜の予定です。2月中旬～3月初旬に確定の予定です。決定次第ホームページに発表します。ご覧下さい。

《公示》同窓会総会開催について

第41回「総会」を下記の要領において開催いたします。同窓会々員(本校卒業生)はどなたもご参集下さい。

さて、今回の「懇親会」は本同窓会諸氏のご協力によって数々のイベントを企画致しました。併せて今回の総会・懇親会は、成人の祝い、(第 61 期卒〈平成 26 年 3 月卒業〉)並びに、還暦の祝い、(第 22 期卒〈昭和 50 年 3 月卒業〉)を同時に計画致しました。下記の予定となります。新成人・還暦に該当される方、お待ち致します。年に一度ですが、同窓生が集まる機会。交流・情報交換の場としての価値は計り知れません。総会後の懇親会においては年代を越えて会話にも熱が入り、毎回時間を忘れる程に多岐に渡る話題は尽きることなく、楽しいひとときを過ごしていただけること請け合いです。

同級生・同窓生同士お互いお誘い合わせの上、奮ってご出席いただきますようご案内申し上げます。

記

日 時 2016年5月28日(土) 午後4時より

場 所 渋谷・エクセルホテル東急 6階 フォレストルーム(渋谷マークシティ内) TEL.03-5457-0109

議 題 1号議案 2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)活動報告
 2号議案 2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)決算報告
 ①一般会計報告 ②第40回総会決算報告 ③繰越金内訳 ④会計監査報告
 3号議案 2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)活動計画
 4号議案 2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)予算案
 5号議案 キャリアスタディ報告
 6号議案 その他



懇親会のご案内

総会並びに『一席』終了後、下記会場に移動して懇親会を開催いたします。週末土曜日の夕刻、仕事と離れ、懐かしい友とお酒を酌み交わしながらひとときを過ごしてはいかがでしょうか。多数のご参加をお待ち致します。お互いに声掛けての参加をお願いいたします。

日 時 総会終了後(午後5時開会～同7時閉会予定)

場 所 プラネットルーム(同階)

会 費 6,000円(飲み・食べ放題・当日)

《スケジュール》

①16時00分～16時30分『総会』

②16時30分～17時00分『落語』

③17時00分～19時00分『懇親会』

『成人の祝い』・『還暦の祝い』

同時進行で《弦楽器演奏(学習院生)》

《同窓生2名を含む、ネルソンバンド、ライブ》

出演者である同窓生のご子息、落語家・三遊亭 司(つかさ) 師匠より、ひと言、申し上げます。

1998年師匠に入門して17年。2015年に真打に昇進。都内の寄席である鈴本演芸場、新宿末廣亭、浅草演芸ホール、池袋演芸場、国立演芸場にて、取り、を勤めさせていただき『笑点』にて披露口上を行いました。この度は御縁をいただきまして一席勤めます。150席を越す持ちネタの中から、皆様のお集りである「同窓会」の場に合った「噺」を申し上げます。どうぞ、お付き合いください。



↑江島修先生(体育科)最終講演
-長年に亘る教員生活を振り返る-

↓同窓会賞授与
(第7回目)
中3学年
展示、



プラスバンド、指揮は菅野裕之先生



同総会も高齢者・若返り対策・活性化をこころがけているのだが、今一步の感がする。条文の細部に踏み込んだ規約の改定、年会費制から終身会費制、同窓会誌「柏」の編集構成方針の変更がある。又キャリアスタディの発表会が1月から11月に変更になり2年を迎えた。年間活動期間の実質的な短縮になり、「柏」の編集・発行、同窓会の活動に影響を与えた。高齢化・若返り対策・活性化の課題については、安心出来る状況ではないが、打てる手を模索している。高齢化・若返り対策について言えば、現理事に60期生の3人の理事を迎えることが出来た。

又、学年委員についても学校側と打ち合わせを密にし、60期生より同窓会規約に学年委員として記載、記憶ではなく記録に残る形にし、学年委員の自覚を促す表現とした。その上で若い理事から、学年委員に積極的に働きかけて貰い若い理事の発掘・勧誘・就任を進めたいと考えている。理事の配置の中だるみ状態の解消については、現役の活動の中、中々なっていただけの方がいないのが現状である。キャリアスタディについては、小泉委員長の努力で新コーディネーター4人が加わっている事をお知らせしておきます。他の方でも新コーディネーター、新研修企業ウェルカムです、宜しくお願いします。

青木 良雅 (12期生)

「新理事よりひとこと」

第60期 栗津知大



この度、同窓会理事に就任致しました栗津知大と申します。

まだまだ未熟者ですが何卒宜しくお願い致します。また第60期の同期としてこの度、瀬戸口友紀君、大高慧央君とも新

理事として加入させていただきました。私、大学では、日本文学を専攻しております。

さて、同窓会におきましては現在、若い会員が圧倒的に不足しており、今後も世代の垣根をこえ、長期に渡り会を存続させ、卒業生の帰る場所を残す為には若い世代を集めることが必要不可欠と考えます。理事として、そちらを解消していければ幸いに存じます。

昨年の我々の成人式の集いでは、諸先輩方のご協力のお陰で大勢の同期と会う良い機会を頂きました。そこで、若い世代にはその世界があり、やはり仲間がいればそこへ皆が集まるものと感じました。

しかし現在、その礎となる若い会員が数少なく、まずはきっかけとなる数名を集める必要があります。そのために、同窓会を御堅いものとしての側面だけで捉えている人に、同窓会は楽しめる、そして先輩方により、たくさんの知識を授かることのできる場所ということを広く認識させなければなりません。そのために、若い世代が盛んに参加できるような行事を我々若い会員が中心となり、作っていけるよう、先輩方に協力して頂ければ幸いに存じます。それでは、今後とも宜しくお願い致します。

編集後記

九州では、成人式で派手な衣装を着るのが流行りだそうで、女子の振り袖など「花魁」に近いものがあるそうだ。華やかなのは結構なことだと思うが社会人として逸脱した行為は勘弁願いたい。

同窓会では、去年から「成人の祝い」がスタートした。去年は、成人の日に渋谷のシダックスで行い、60期生が120人程度集まり盛況であった。母校である本校卒業後に久しぶりに会う仲間と絆を深めたことだと思う。今年は、「成人の祝い」と「還暦の祝い」を総会・懇親会のある5月28日(土曜日)に行います。落語あり、弦楽演奏あり、バンド演奏ありとイベントも盛りだくさんなので仲間と呼び合って参加して楽しんでいただきたい。同窓会の予算も永久会費制度へと移行した結果、ほぼ毎年全員加入して頂いているので多少余裕が出てきたので懇親会も充実させることが出来ます。同窓会規約にあるように会員相互の親睦を深めることが可能かと思えます。

さて、今私たちが直面していることで「公職選挙法」の選挙権が18才に引き下げられるということがあ

る。果して高卒時で彼らに確たる「アイデンティティ」が備わるのだろうか？逆に心配事が増えたような気がする。

社会システムに関しては、私自身は多様性を許容する社会が正解だと信じている。色々な価値観が許される社会だ。ある特定のグループの価値観だけが優先して採用されたら、どうなるのか？今のアメリカがその典型である。ほんの数パーセントの金持ちが自分たちの都合の良い社会システムにしてしまい、格差社会が生まれ金持ち以外は、金持ちの奴隷のように働かされる社会だ。これが、もう10年以上アメリカで続いていて、彼ら自身も疑問を持ち始めている。それが、トランプ氏が人気を有する所以でもある。トランプ氏が自分の稼いだ金で選挙を戦っているからだ。他の候補はどうかと言えば金持ち連中から資金援助を得て選挙を戦っているために、そんな候補が大統領になったところで金持ち優遇政策が採用されてしまい今までと何も変わらない。日本でも、選挙意識が薄れて誰が何をしようとする自分には関係ないと思っている人が増えてしまった。残念である。 同窓会会長 安藤 友二 (25期生)